

伊平屋く運天港航路に 「フェリーいへやⅢ」が就航

沖縄本島周辺の島々の中で最北端に位置する島・伊平屋島は、ウンジャミ等の沖縄古くからの伝統行事が数多く残されており、沖縄県の天然記念物として知られる念頭平松などを始め、歴

史、祭り、自然豊かな伊平屋村の魅力をいかした観光や、伊平屋ムーンライトマラソンなどのスポーツイベントが行われています。

その伊平屋島へは今帰仁村の運天港からフェリーが1日2往復

運航していますが、伊平屋島までの航路は波が荒いことで知られ、北からの風が強くなる冬季には度々欠航することから、伊平屋村民はフェリーの安定運航の確保に悩まされていました。

そのような伊平屋島と運天港を結ぶ航路に、平成7年から18年以上の長きにわたって就航していましたが「フェリーいへや」（総トン数498トン・旅客定員300名）に代わり、平成26年4月1日より新船「フェリーいへやⅢ」が就航しました。

新船「フェリーいへやⅢ」は全長76m、総トン数

756トン、最大旅客定員450名と旧船より一回り大型化され、横揺れを軽減するフィンスタブライザーの装備により、波に強く安定性に優れることから快適かつ安心、安全な船旅が可能となっています。

また、多目的トイレなどのバリアフリー対応設備や船内エレベーターの設置により、高齢者や車いす利用者にも配慮した構造となっています。

大分県の造船所から伊平屋島の前泊港に入港した3月30日（日）には多くの伊平屋村の皆さんが港に駆けつけ、婦人会や青年団による舞踊やエイサーで賑やかに「フェリーいへやⅢ」の就航を祝いました。

また、4月12日（土）に行われました「フェリーいへやⅢ就航記念式典・祝賀会」では県内外から多くの関係者が集まり、伊平屋村の皆さんとともに新船就航を祝いました。

ちなみに船名に「Ⅲ」とあるのは、村の歴代の船で「フェリーいへや（伊平屋）」の名を冠する船がこれで三代目となることから、伊平屋村野甫小中学

校の生徒6名により「フェリーいへやⅢ」と命名されたことによります。

新船「フェリーいへやⅢ」の就航により海上輸送の一層の充実が図られ、利用者の利便性向上や安定的な物資運搬、伊平屋村のさらなる観光振興など、地域の活性化に大きく寄与するとともに多くの経済効果が期待されています。



フェリーいへやⅢ就航記念式典・祝賀会（写真提供：伊平屋村）



フェリーいへやⅢ（写真提供：伊平屋村）